

TOYOTETSU

環境報告書 2024

トヨタグループは、ものづくりの技術開発と環境保全活動を進め、SDGsを達成する社会構築をめざしています。



(トヨタの森イベントでの記念写真)

1 目次

1. 目次	1
2. トップメッセージ	2
3. 環境マネジメント	3
4. 2023年度取組み結果	7
5. 脱炭素社会に向けた取組み	8
1: CNロードマップ	
2: 生産活動における実績総括	
3: 生産活動におけるCO ₂ 排出量 低減実績	
4: 生産・生技部門の改善実施内容	
5: 技術開発によるCO ₂ 低減	
6: トヨタグループと再生可能エネルギー	
6. 循環型社会に向けた取組み	16
1: 生産活動における水使用量実績・ 廃棄物排出量実績	
2: 樹脂製品の進化	
7. 自然共生社会に向けた取組み	18
1: トヨタの森での活動	
2: トヨタの森10周年	
3: トヨタの森 受賞と更なる取組み	
8. マネジメントでの取組み	24
～SDGs取組み紹介～	
1: 地域との連携	
2: 環境月間での取組み	
3: トヨタグループトピックス	
9. 第三者保証	29

編集方針

トヨタ環境報告書は、トヨタの環境保全活動について広く社会に発信することを目的に発行しています。

報告対象範囲

豊田鉄工(株)および連結対象の関連会社

※グラフ、表のデータは豊田鉄工本体のものを示す。
(一部で国内外事業体データを含む)

報告対象期間

2023年4月1日から2024年3月31日
までの活動を報告

参照ガイドライン

環境省発行
『環境報告ガイドライン』

発行時期

2024年12月

会社概要

会社名	豊田鉄工株式会社 TOYODA IRON WORKS CO., LTD.
代表者名	坂元 康彦
所在地	本社：愛知県豊田市細谷町 4-50
創立	1946年（昭和21年）2月27日
主な事業	自動車部品製造

2 トップメッセージ

2030年CO₂排出量50%減 (2013年比) に向けて、みんなでチャレンジ

私たちトヨタグループは、2050年カーボンニュートラルを目標として、直近2030年に2013年度比50%減を達成するべく、努力を続けております。

今年の日本の夏は本当に暑く、局所的な豪雨にも見舞われました。また、日本だけでなく世界各地で起きている自然災害や異常気象は、CO₂などの温室効果ガスによる地球温暖化が原因のひとつと言われています。空も海も山も街も、以前の四季感や自然の生態系は間違いなく変化してきています。今、この悪い波をなんとか喰い止めなければなりません。

トヨタグループは、第5次環境取組みプラン（2021年～2025年）として、「脱炭素」「循環型社会」「自然共生・生物多様性」「マネジメント」を基軸に活動しています。

その活動の成果は、必ず『地球温暖化』に歯止めを掛ける事ができると信じて行動しています。

今、環境への取組みは“待ったなし”の状況です。教育や啓蒙活動やなどのソフト対策はもちろん、ハード対策として大きな投資への経営的判断もタイムリーにスピーディーに、またフレキシブルに対応していきます。

私たちトヨタグループ全社員は、企業活動の中だけでなく、それ以外でも「電気、ガス、水を無駄に使いません。」、「ゴミを減らします。」、「自然を大切にします。」そして、その行動を続け、次世代にその意義を伝えていきます。

地球のために、そして未来のために、常に環境保全・改善に取り組んでいきます。



代表取締役社長

坂元 康彦

3 環境マネジメント

3-1. トヨタグループ環境方針



環境方針

トヨタグループ地球環境憲章 (基本方針)

*国内・海外のトヨタグループに適用

1. 豊かな21世紀社会への貢献

豊かな21世紀社会へ貢献するため、環境との調和ある成長をめざし、全ての事業活動にわたってゼロエミッションに挑戦します。

2. 環境技術の追求

トヨタグループは常に環境に配慮し、自動車部品をはじめとした製品開発ならびに環境にやさしい技術の開発に努めます。

3. 自主的な取り組み

未然防止の徹底と法規制等の順守に努めることはもとより、地球規模及び各国・各地域の環境課題を踏まえた自主的な改善計画を策定し、継続的な取り組みを推進していきます。

4. 社会との連携・協力

客先や仕入先との協力はもとより、地域社会をはじめ環境保全に関わる社会の幅広い層との連携・協力関係を構築していきます。

トヨタ環境方針

1. 自動車部品を中心とするプレス・組立・型製作・樹脂成形等の事業活動全般において、環境への影響を予測・評価し、環境目的・目標を定め、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うと共に見直しを行います。
2. 環境に関する法規制及び協定等を順守します。
3. 限りある資源を大切にすため、全員参加で廃棄物低減・省資源・省エネルギーに取り組めます。
4. 工場周辺環境を踏まえ、地域社会との交流・情報収集を大切にすると共に、地域社会に迷惑をかけないよう汚染防止に努めます。
5. 環境に関する教育や広報活動を推進し、全従業員の環境に対する意識向上を図ります。

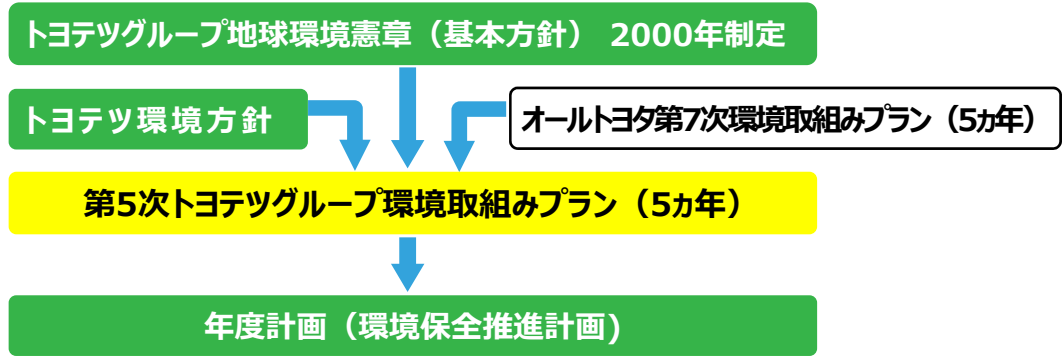
2023年 6月
全社統括環境責任者

周田 稔

3 環境マネジメント

3-2. 環境方針・環境取組みプランとSDGs

環境に関する基本方針は、2000年に制定された「トヨタグループ地球環境憲章」のもと、「トヨタ環境方針」として定め、国内外事業体20社で共有しています。そしてこの方針に基づき、5か年プラン及び年度計画を立案し、環境法令順守、省エネルギー・省資源や廃棄物低減を全員参加で取組んでいます。



第5次トヨタグループ環境取組みプランは、2021年度からの5か年の活動の目標と計画を定めたものです。企業活動における環境の重要取組みテーマを4つに分類し、環境に配慮したものづくりを通じて、地球保全と地域社会の持続可能な発展に貢献します。

① 脱炭素社会の構築

- *温室効果ガス排出量の大幅な削減
- ・部品軽量化開発
- ・工場CO₂排出量低減
- ・物流CO₂排出量低減



② 循環型社会の構築

- * 3 R (Reduce, Reuse, Recycle) を通じた資源循環の推進
- ・リサイクルしやすい部品開発、拡販
- ・排出物の低減と資源の有効活用
- ・水使用量の低減



第5次トヨタグループ環境取組みプラン



③ 自然共生社会の構築

- *地域とつなぐ自然保全活動、未来へつなぐ教育
- ・緑化事業の推進
- ・世界へつなぐ環境活動の推進



④ マネジメント

- *法令順守、情報の開示とコミュニケーション
- ・グローバル社員教育
- ・ビジネスパートナーと連携した環境活動



[異常気象：猛暑、豪雨]



[干ばつによって緑地が消失]



[大量のゴミの山]

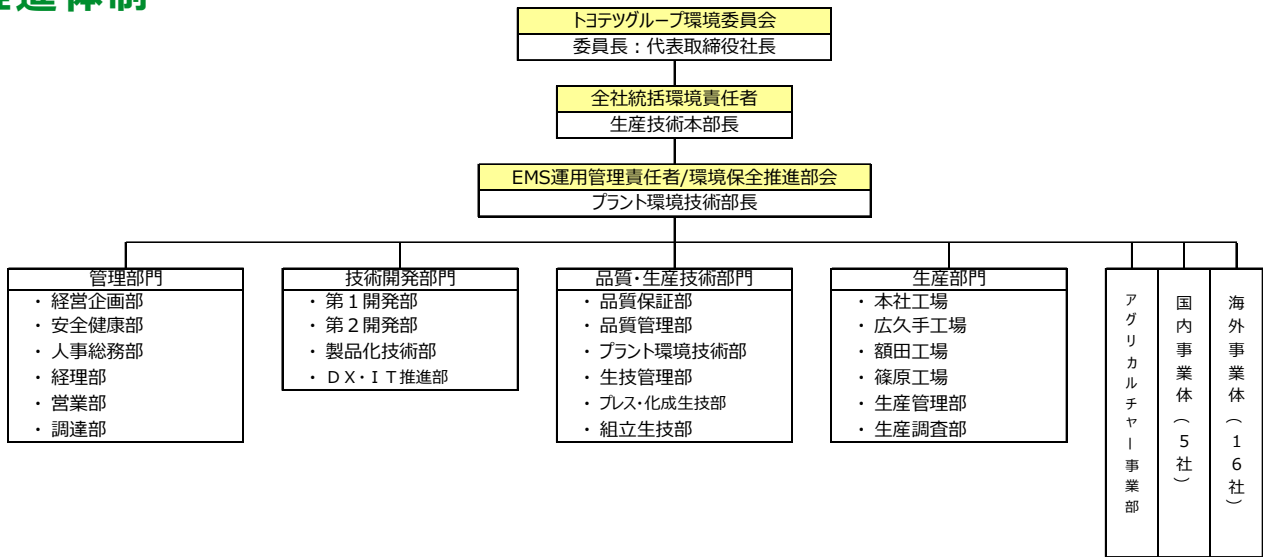


“みんなの地球をいつまでもこんな状態にしないために、・・・”

3 環境マネジメント

3-3. 環境推進体制とリーダーの思い

推進体制



本社工場（山内工場長）

異常撲滅活動を通じ、エアを漏らさない、漏らさせない対策を進めていきます。
TPS・TPMを通じ、生産性向上、歩留まり改善、工程内不良削減を全員参加で取組み、CO₂排出量低減に貢献します。
またトヨタの森での自然共生の取組みを通じ、環境保全活動にも積極的に支援していきます。

広久手工場（下川工場長）

スマート工場をめざすと同時にエネルギーロス、資源ロスを減らし、人にも環境にもやさしい工場づくりを全員で取組みます。
また、工場内の大型工事期間中は近隣住民の皆様への配慮をしっかりと行い、地域イベントに積極的に参加することにより、地域の活性化にも貢献します。

額田工場（澤田工場長）

緑豊かな額田工場では、生活排水を微生物により処理し、微生物の活動が弱る冬場には、加温機を使って能力低下抑制を行い、川へ放流しています。
またTPS・TPMを通して、全員参加で工程内不良低減、CO₂排出量低減に取り組むとともに、「ぬかたの森」を整備することで、更に地域の方々との交流を深め、環境保全活動を次世代に伝えていきます。

篠原工場（近藤工場長）

年々環境への意識が高まる中、篠原工場としては生産活動を通じ全員参加で様々なロスに着目し、CO₂排出量や廃棄物低減に努めていきます。
ひとり一人の行動が、将来の『安心』へ繋げられるように、環境保全推進活動を職場内でしっかり浸透させていきます。

プレス・化成生技部（横地部長）

生準ロスで起こるCO₂排出のミニマム化を図るべく、内製金型体質強化活動を推進しています。補正（リターン）回数の低減、資材（鋼材・溶接棒等）ロスの低減に取り組んでいきます。
また工程設定段階から鋼板プレス及び樹脂成型の材料歩留まり向上を行い、量産時の廃棄ロス低減に取り組んでいきます。

アグリカルチャー事業部（広瀬事業部長）

水耕栽培ならではの活動として、収穫段階で発生してしまう規格外品の飼料化や資源リサイクルとして食料品以外の加工品“飲む酢 ベビーリーフビネガー”を製造し、『つくる責任』に繋がっています。
24時間稼働の栽培工場では電気使用量低減の面では厳しい部分もありますが、CNへ一層の高い意識で、省エネや省資源活動に取り組んでいきます。

3 環境マネジメント

3-4. 第5次トヨタグループ環境取組みプラン(2021-2025年度)

トヨタは2001年から環境取組みの中期計画を作成しています。2021年から2025年の5ヵ年計画として第5次環境取組みプランを策定し、様々な取組みを進めています。

●付： オルトヨタ環境連結取組み（必須）

○：必須、(○)：一部必須、—：対象外

区分	取組み項目	SDGs	具体的な実施事項・目など	目標値	主たる実施部署	国内事業体	海外事業体
低炭素（気候変動・CO ₂ ）	1 トップクラスの燃費性能を目指す開発		部品の軽量化によるCO ₂ 低減（ライフサイクルによる積上げ）	26,261 t-CO ₂ 低減	第1.2技術	—	—
	2 次世代車に向けた部品開発	13 気候変動	現行ガソリン車から電動車・ZEV変換に伴う部品開発	開発取組み：2部品 開発完了：5部品	開発.2技術	—	—
	3 物流活動における輸送効率の追求とCO ₂ 排出量の低減	13 気候変動	●輸送効率の一層の改善によるCO ₂ 低減活動の推進（徹底した総走行距離の低減）	CO ₂ 排出総量▲5% (2020年比)	生産管理	○	—
	4 エコ交通の推進		グローバルでのエコドライブ普及推進とエコ交通への代替推進、コモビ拡販	Scope3 排出量削減▲5% (2020年比)	事務局	○	○
	5 生産活動におけるCO ₂ 排出量の低減	3 気候変動 7 産業と資源効率	●1) 低CO ₂ 生産技術の開発・導入と日常改善活動によるCO ₂ 低減活動の推進 ・生産性向上の追求、オフィス等も含めた活動の展開 2) 電気使用量原単位低減 (4次プラン目標の'10年度比'25年度▲50%は'19年度に達成済み) 3) 最新省エネ機器、エネルギー導入への道筋を展開 ①PQ加熱炉の熱利用 ⇒ 継続的に推進する ②世間状況を見て省エネ機器、エネルギー導入への道筋を立てる ●4) 各国、各地域の特性を考慮した再生エネルギーの導入(購入含む)の 一歩として自家消費出来る太陽光発電等の設置（投資回収を見ながら） 水素活用、CO ₂ 排出権購入等の検討を進める	CO ₂ 排出総量('13年比) TIW：▲25%(17441t) グローバル：前年比▲6.5% CO ₂ 総排出量 ▲25%低減の内数 CO ₂ 総排出量 ▲25%低減の内数 (再エネ導入率) TIW：5%以上	本社 生技管理 事務局 生技管理 各工場 事務局	○ ○ — — (○)	○ ○ — — (○)
循環（資源・水）	6 生産活動における水使用量の低減	6 清潔な水と衛生	●各国、各地域の水環境事情を考慮し、継続的な水使用量低減活動を推進 ①雨水利用拡大、工場排水の循環リサイクル、クーリングタワー更新 ②日常改善など各種取組みによる水使用量低減	総使用量▲5% (2020年比)	本社	○	○
	7 資源回収しやすい易解体性の実現（環境配慮設計の継続取組み）	8 持続可能な消費と生産	●新技術・新材料部品の易解体構造の開発・織込み・拡販	開発完了：5部品	第2技術	(○)	—
	8 生産活動における排出物の低減と資源の有効利用	9 廃棄物の削減と資源の有効利用 12 持続可能な消費と生産	●1) 歩留まり向上等の発生源対策による排出物低減と資源の有効利用促進 ●2) 有価物・廃棄物の発生量低減等、資源ロス低減活動の推進	総排出量▲5% (2020年比)	本社 各工場 事務局	○ ○ ○	○ ○ ○
自然共生	9 各事業所・各地域の活動を"地域とつなぐ"自然保全活動の推進	11 気候変動	●自然保全の活動を地域とつなぐ ・これまでのサステナブル・プラント活動の継続と、オルトヨツツのさまざまな活動を、海外・関連会社や地域へ拡げる、ステークホルダーとの連携で活動の輪を広げる。	自然と共生する工場 国内 1ヶ所増	計画部署 生技管理 事務局	○	○
	10 自然・生物多様性保全を"世界へつなぐ"環境活動の推進	15 陸の豊かさ	●環境保全・生物多様性保全の活動を世界とつなぐ ・TIWの活動をグローバルに展開	海外 2ヶ所増	事務局	○	○
	11 環境活動を"未来へつなぐ"環境教育貢献の強化	13 気候変動	●各地域の事業所やフィールドを活用した環境教育を強化し、環境保全活動を未来へつなぐ ・工場の森、事業所の緑、ピオトープなどを活用した地域住民・子供教育をグローバルに拡大していく	トヨタの森で環境教育プログラム継続実施	人事総務 事務局	—	—
	12 緑化事業などによる環境貢献の推進	13 気候変動	●1) 緑化事業などを通じた、温暖化・気候変動「適応」貢献	グリーンウェイ継続	事務局 生技管理	○	○
マネジメント	13 連結環境マネジメントの強化推進	7 産業と資源効率 6 清潔な水と衛生	●1) 国内外における環境活動の充実による各国、各地域での全事業活動にかかわる環境パフォーマンス(CO ₂ 低減・ランクアップ活動、水低減など)確保に向けた活動の強化 ●2) 各国、各地域の環境法令遵守と環境リスクの未然防止活動の徹底強化	活動状況の共有 (経営会議) 異常苦情・ヒヤリゼロ IMDS入力不備0件	事務局 本社 第2技術 事務局	○ ○ ○ (TEC)	○ ○ ○ ○
	14 各国、各地域の都市大気環境改善に資する排ガス低減	16 持続可能な消費と生産	●各国、各地域の都市環境改善に資する低排出ガスを着実に導入	ZEV車積極導入	人事総務	○	○
	15 生産活動におけるVOCの低減	3 気候変動	塗装工程における塗料、シンナー（トルエン、キシレン等）の低減等VOC低減活動の推進 ・塗装設備改装計画と連動した取り組みと日常改善によるVOC低減を継続的に推進	VOC▲5% (2020年比)	各工場	(○)	(○)
	16 ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進	17 気候変動	●仕入れ先との連携を一層強化し、オルトヨツツと共に環境を良くする活動を推進 ①CO ₂ 低減、資源循環、水インパクト低減、自然共生社会の構築等、幅広い環境取組みを連携して推進 ②TOYOTAグリーン調達ガイドラインの取り組みをオルトヨツツに展開	仕入れ先環境フォロー 会社の拡大	調達 事務局	○	○
	17 グローバル社員教育・啓発活動の一層の強化	4 質の高い教育をみんなに	●グローバルで、従業員への環境教育を通じた環境保全意識の啓発推進 ①国内外事業体と連携した環境教育の推進（グローバル環境担当ミーティング） ②各国、各地域の実情に合わせた環境教育の実施	グローバルで共通の 教育資料作成	人事総務 事務局	○	○
	18 環境情報の積極的開示とコミュニケーションの充実	14 気候変動 12 持続可能な消費と生産	●1) 環境の情報開示の一層の充実 ①環境情報の収集対象とする事業体の拡大とその仕組みづくり ②環境報告書の更なる内容充実 ●2) グローバル及び各国、各地域での環境のコミュニケーション活動の充実	CDPランク" B" 維持 国内外事業体内容拡大 1回/年 以上	事務局 事務局 人事総務 各工場	— — ○ ○	— — ○ ○

4 2023年度取組み結果

4-1. 環境取組みプラン結果

トヨタは第5次環境取組みプランに基づき、自動車部品の開発・設計、生産、物流のあらゆる段階において、温室効果ガス及び排出物の削減に取り組んでいます。

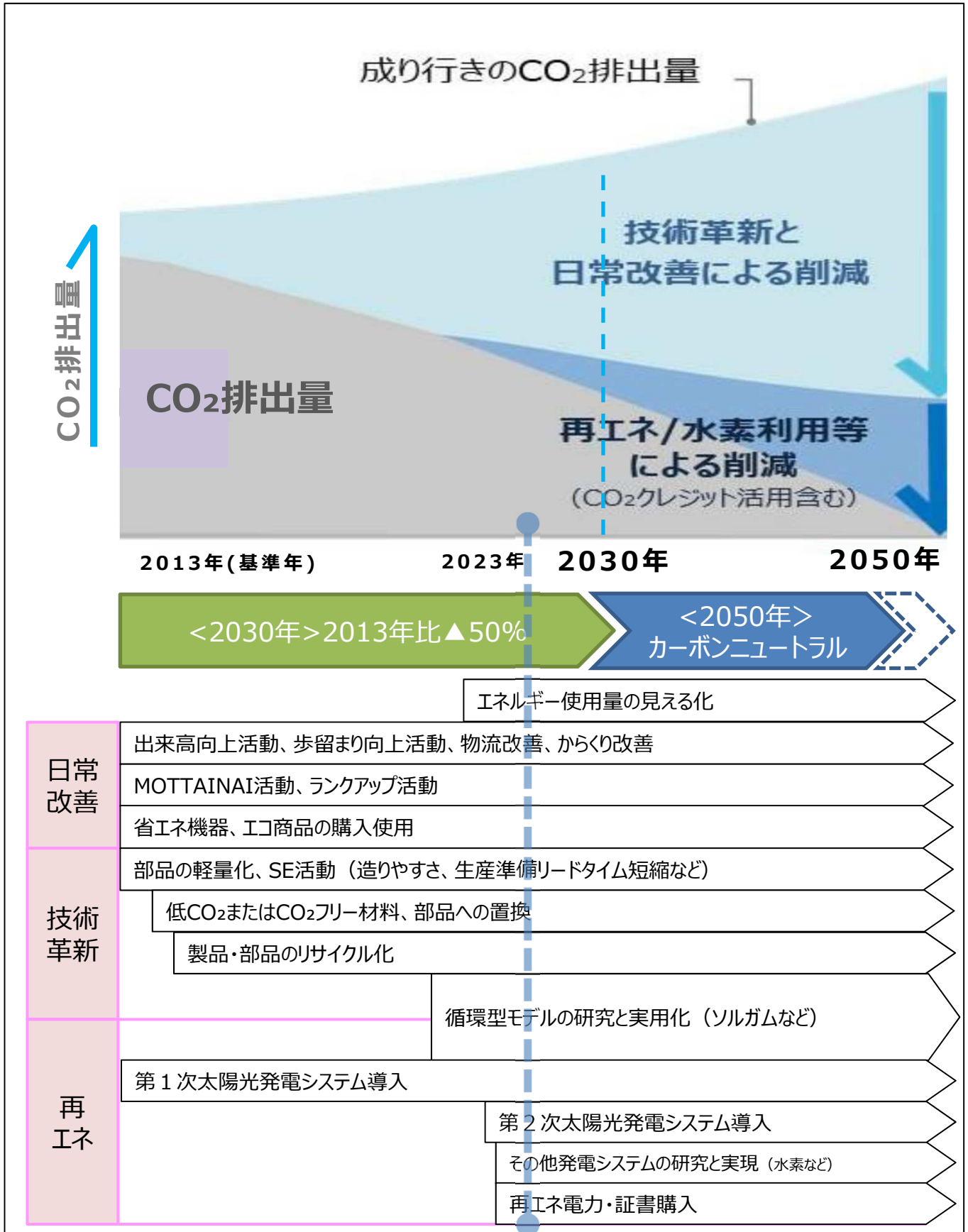
2023年度 トヨタグループ環境取組みプラン

達成: ☀️ 未達: ☁️ 重大な欠陥: ☔️

区分	取組み項目	SDGs つながり	基準年	主な実施内容	目標値	結果					
						TIW	国内事業体	海外事業体			
低炭素 (気候変動・CO2)	1 トップクラスの燃費性能を目指す開発	13 気候変動	20年度	・部品の軽量化	17,746 t-CO2低減	46,622t-CO2	☀️				
	2 次世代車に向けた部品開発			開発取組み: 2件 開発完了: 2件	開発取組み: 2件 開発完了: 3件	☀️					
	3 物流活動における輸送効率の追求とCO2排出量の低減	3 気候変動	20年度	・トラックタイヤの見直し ・走行ルートの見直し ・車両あたりの積載量を増やす	CO2排出総量▲3% (2020年比)	▲37.8%	☁️	排出総量	☀️		
	4 エコ交通の推進			・エコドライブの実践	業務用車CO2▲1%	+8.4%	☁️	エコドライブ	☁️	エコドライブ	☁️
	5 生産活動におけるCO2排出量の低減			・環境に配慮した移動手段の実践 (業務用車ハイブリッド化、通勤自転車切替)	原単位▲12.2% 総量20,100t-CO2以下 (▲12.2%)	19年度比 原単位▲27.8% 総量19,819 t-CO2 (▲18.1%)	☀️	目標: ▲23.6% 原単位: ▲35.7% 総量: ▲4.8%	☀️		
・工場×生技×環境改善活動で省エネ加速 (事業体はTIWの内容を横展)		CO2削減に含む		☀️							
循環 (資源・水)	6 生産活動における水使用量の低減	6 清潔な水と衛生	19年度	・雨水の利用、工場排水利用のためのシステム検討	総使用量▲4% (2019年比) 原単位評価も可	総量▲1.9% (原単位▲36.0%)	☀️	総使用量	☁️	総使用量	☁️
	7 資源回収しやすい易解体性の実現 (環境配慮設計の継続取組み)	8 持続可能な消費		・オートトヨタ丸となった節水の取り組み	計画の達成	計画通り	☀️				
	8 生産活動における排出物の低減と資源の有効利用	9 気候変動 12 持続可能な消費	19年度	・発生源対策及び不良低減による排出量の抑制	総排出量▲4% (2019年比) 原単位評価も可	総量+16.4% (原単位▲24.1%)	☁️	総排出量	☀️	総排出量	☁️
				・ペーパーレスの推進 (PDF化、保管方法見直しなど)	計画の達成	計画通り	☀️				
	9 各事業所・各地域の活動を”地域とつなぐ”自然保全活動の推進	11 持続可能な都市とコミュニティ		・豊田市及びVEPOC各分科会と連携して活動の輪を広げる	HPに活動を発信	活動を掲載	☀️				
自然共生	10 自然・生物多様性保全を”世界へつなぐ”環境活動の推進	15 陸の豊かさ	・緑化活動、環境美化活動参加 (グリーンウェイブ継続)	各1件以上	各1件以上	☀️	美化緑化	☀️	美化緑化	☀️	
			・トヨタの森生物多様性保全の紹介	見学会実施	3団体、個人2名 取材3件	☀️					
	11 環境活動を”未来へつなぐ”環境教育貢献の強化	13 気候変動	・トヨタの森を活用した教育プログラム実施	2回実施	3回実施	☀️					
	12 緑化事業などによる環境貢献の推進	13 気候変動	・ヒートアイランド対応 (壁面緑化、高性能遮光塗料の普及拡大)	1件以上	グリーンカーテン実施	☀️	☀️		☀️		
マネジメント	13 連結環境マネジメントの強化推進	7 気候変動 6 清潔な水と衛生	・国内外事業体の環境パフォーマンス報告 (経営会議にて)	2回/年	2回/年	☀️					
			・テレビ会議による環境交流会 (ランクアップ活動フォロー、情報共有等)	実施100%	100%	☁️					
			・異常苦情ヒヤリの未然防止活動	異常苦情ヒヤリ0件	ヒヤリ3件	☁️	0件	☀️	0件	☀️	
			・工場インフラ老朽化による環境異常発生未然防止 : 危険マップ作りと中長期整備計画作成	実施100%	計画通り	☀️	計画通り	☀️	計画通り	☀️	
	14 各国、各地域の都市大気環境改善に資する排ガス低減	16 気候変動		・国内外事業体の環境法令順守チェック及びフォロー	実施100%	100%	☀️	100%	☀️	100%	☀️
				・製品化学物質に関する各国の規制及び密着規定順守	IMDS入力不備0件	0件	☀️	0件	☀️	0件	☀️
	15 生産活動におけるVOCの低減	3 気候変動		・業務用車 (更新車両) の低排出ガス車に切り替え	対象車100%	100%	☀️			おおむね	
				・VOC低減対策を継続実施	1件以上	1件以上	☀️				
	16 ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進	17 気候変動		・仕入れ先に対する環境パトロールの実施・フォロー	計画の達成	計画通り	☀️			おおむね	
				・赴任者環境教育の継続	実施100%	100%	☀️	教育実施	☀️	教育実施	☀️
17 グローバル社員教育・啓発活動の一層の強化	4 質の高い教育		・TIWのランクアップ活動とIMDS化学物質管理をグローバルで定着させる	TV会議開催フォロー	CNミーティング実施	☁️					
			・HPのアップデート	随時アップデート	アップデート実施	☀️					
			・CDPサプライチェーンマネジメント対応	炭素B維持・水B→B	炭素B,水B	☀️					
			・環境月間行事、緑化活動、受賞などの特集を入れ込む	11月発行	11月発行済	☀️					
18 環境情報の積極的開示とコミュニケーションの充実	12 持続可能な消費		・地域への環境取り組み説明	1回	計画通り	☀️			おおむね		

5 脱炭素社会に向けた取組み

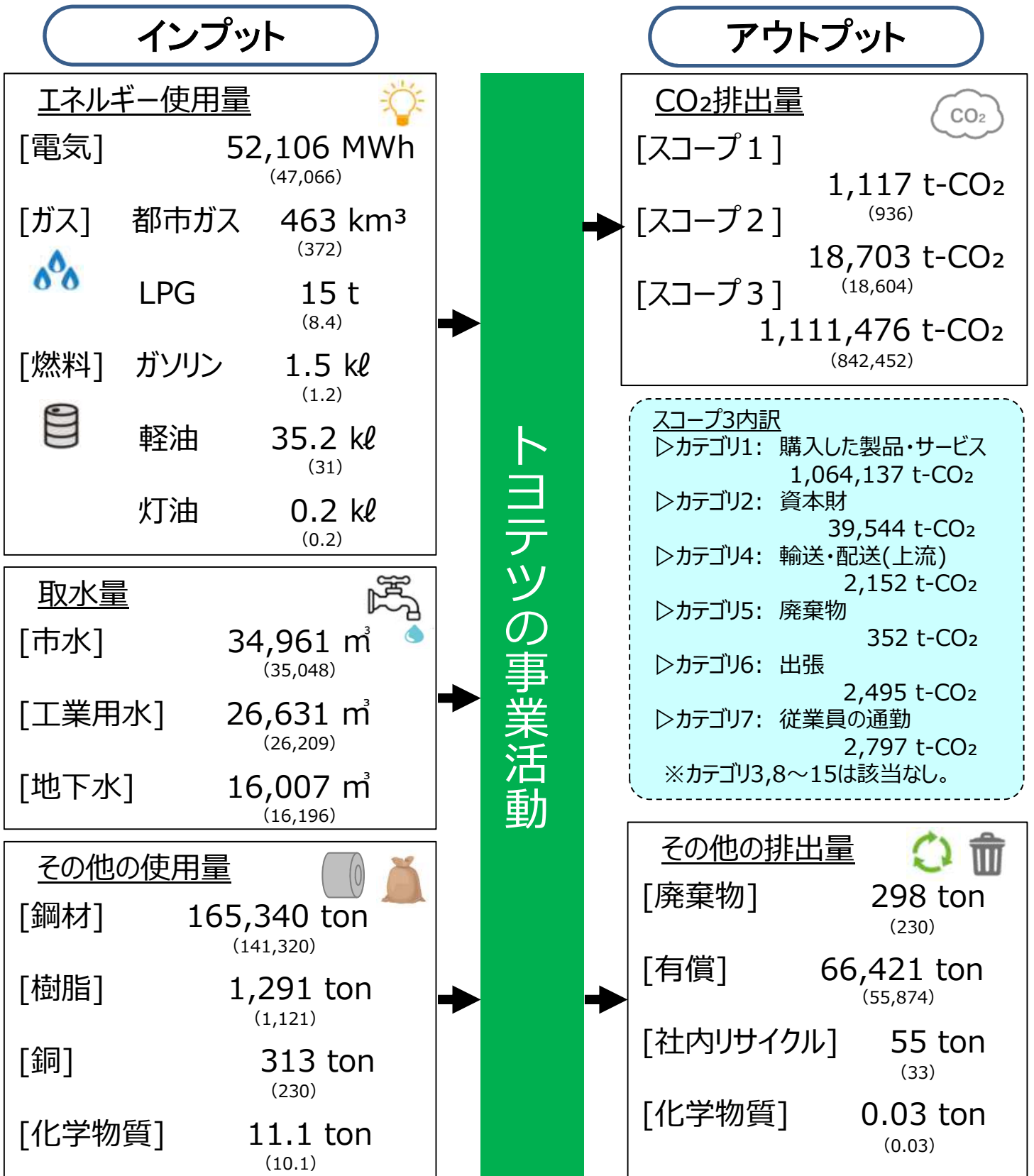
5-1. CNロードマップ



5 脱炭素社会に向けた取組み

5-2. 生産活動における実績総括（入・出）

* トヨタテツ単体の値を示す。
（ ）内は2022年度の数值。



2023年度は前年度に比べ生産台数増加により、インプット・アウトプット共に増加しています。（278万台⇒331万台；19%アップ）

5 脱炭素社会に向けた取組み

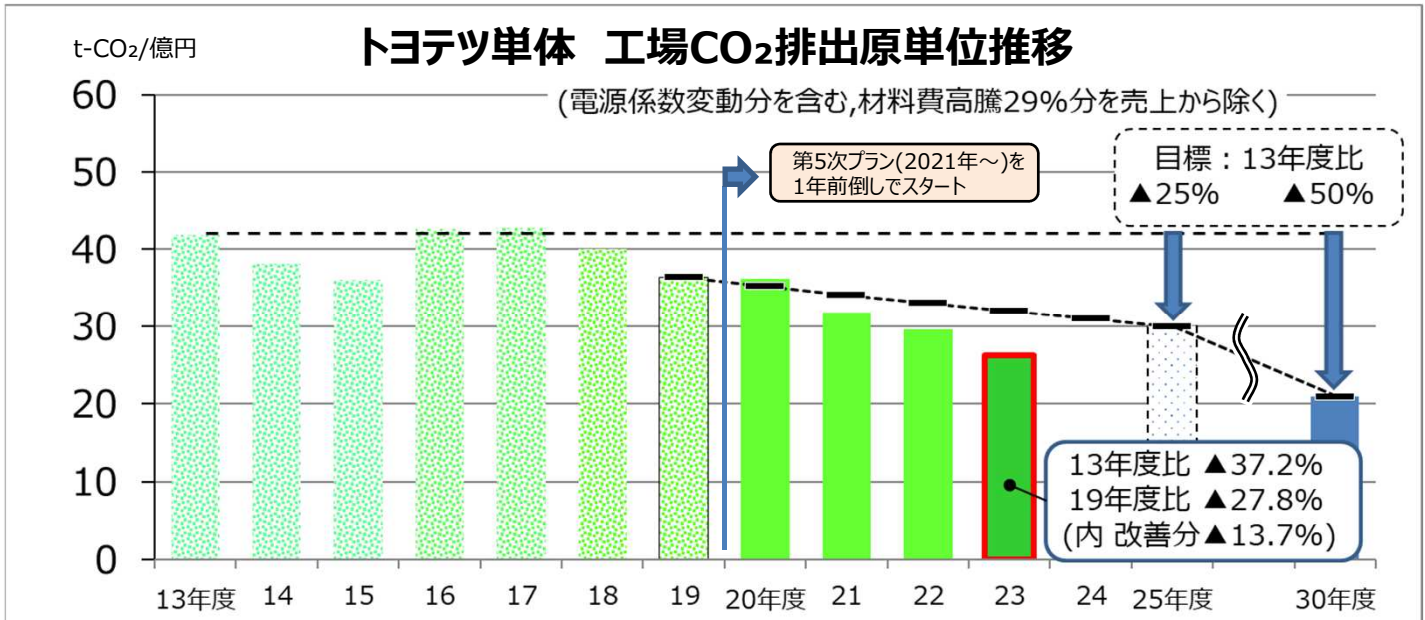
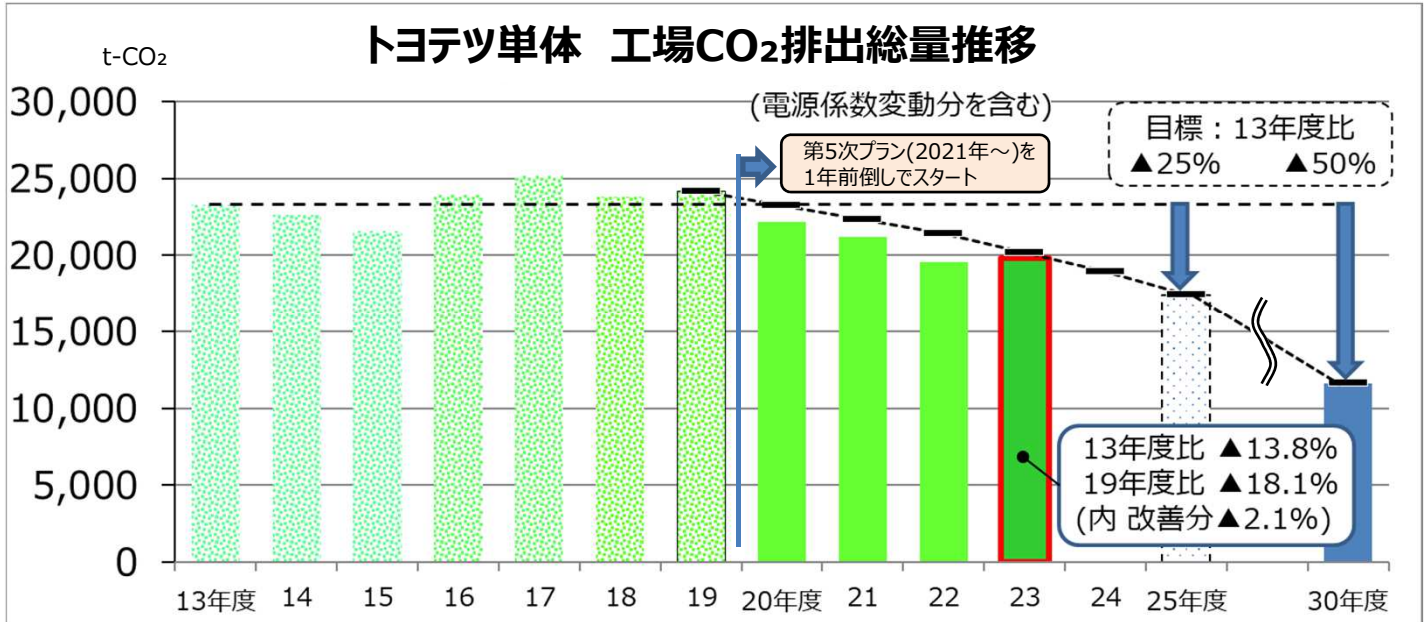
5-3. 生産活動におけるCO₂排出量低減実績

CO₂排出

改善低減分での目標と結果
(電源係数変動分を含まない)

※CO₂削減目標は2019年度より毎年▲3.2%積み上げ

総量 : 目標▲12.2% (20,160t-CO₂) ⇒ **結果▲18.1%** (19,819t-CO₂)
原単位 : 目標▲12.2% (32t-CO₂/億円) ⇒ **結果▲27.8%** (26t-CO₂/億円)



23年度CO₂排出総量・原単位ともに目標達成できた。工場におけるエネルギー低減活動として、照明のLED化、エア漏れ対策や電灯・設備のスイッチOFFを徹底など一人ひとりが脱炭素社会を意識した取組みが成果に表われてきている。

5 脱炭素社会に向けた取組み

5-4. 生産工場における改善実施内容 1

本社工場

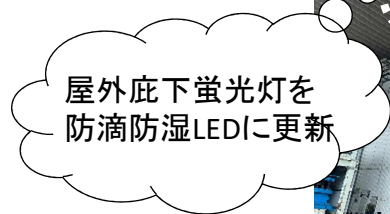


屋外照明のLED化

カエル

屋外底下の防湿仕様蛍光灯をLEDタイプに更新 全9か所

《効果》 0.57t-CO₂/年 削減



設備エア漏れ改善

トメル

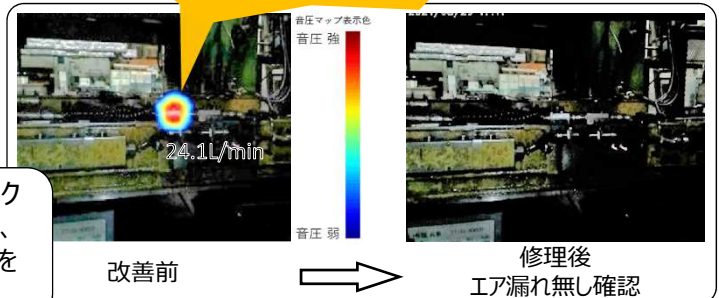
エアリークビューアーでエア漏れの量と箇所を可視化し、漏れ修理を実施

《効果》 0.46t-CO₂/年 削減

プレス機 送り装置からエア漏れ



設備内をエアリークビューアーで撮影、漏れ場所と流量を特定し改善



広久手工場



採光改善による省エネ活動

カエル

老朽化した明かり採りの貼替えて、晴天時昼間の照明消灯を実現し省エネに貢献

《効果》 1.41t-CO₂/年 削減



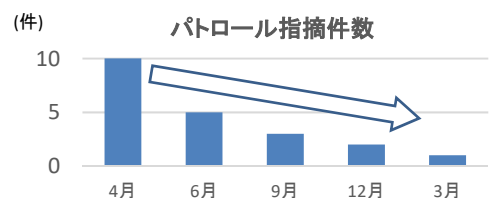
省エネパトロールでエネルギーのムダ撲滅活動

トメル

カエル

休憩時間中に省エネ担当者が見回り、設備非稼働時の電源OFFを徹底

《効果》 0.62t-CO₂/年 削減



5 脱炭素社会に向けた取組み

5-4. 生産工場における改善実施内容 2

額田工場

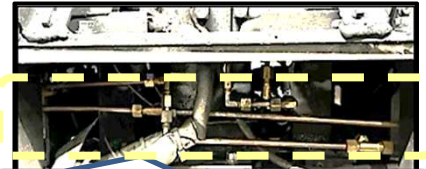


エア配管材質変更によるエア漏れ対策

溶接設備のエア用樹脂ホースを銅管に変更
スパッタ付着による配管破れがなくなり、設備
からのエア漏れゼロ

《効果》 5.42t-CO₂/年 削減

カエル



樹脂ホース⇒銅管に変更
エア漏れゼロ

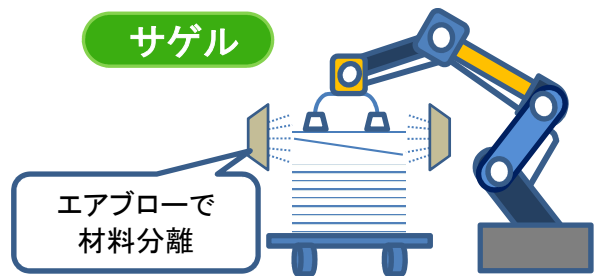


材料供給装置のエア使用量低減

DF材料分離装置のエアブローを
常時⇒材料取出時のみ吐出に変更

《効果》 8.14t-CO₂/年 削減

サゲル



照明機器の省エネ

高効率なLEDを採用して、必要照度を確保しつつ、
機器数を削減（組立・物流エリア）

《効果》 26.67t-CO₂/年 削減

カエル

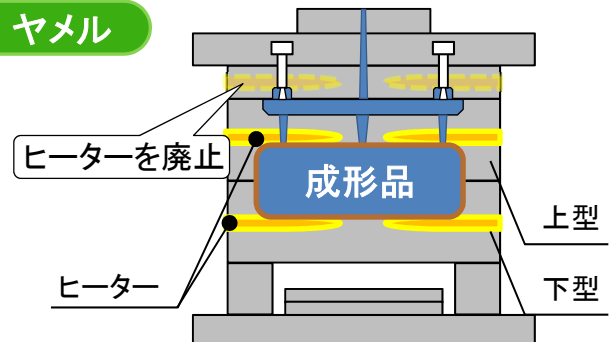
篠原工場



電子部品樹脂型の電力量削減

成形品質に影響のないヒーターを
廃止し、電力使用量削減
（20本中4本廃止）
全7型分実施し、28本ヒーター廃止
《効果》 36.03t-CO₂/年 削減

ヤメル

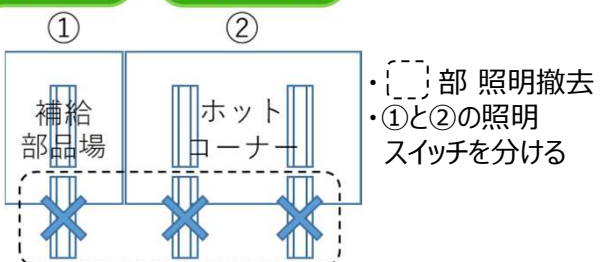


照明撤去・細分化で省エネ

不要な照明の撤去と照明スイッチの
細分化により不要な電灯電力削減
《効果》 1.03t-CO₂/年 削減

ヤメル

カエル



5 脱炭素社会に向けた取組み

5-4. 生産技術部門における改善実施内容

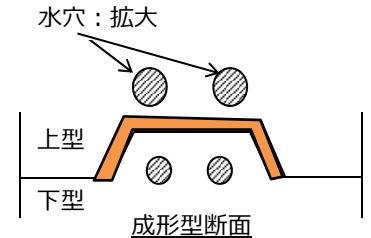
プレス化成生技部



樹脂成形型の冷却時間短縮改善

カエル

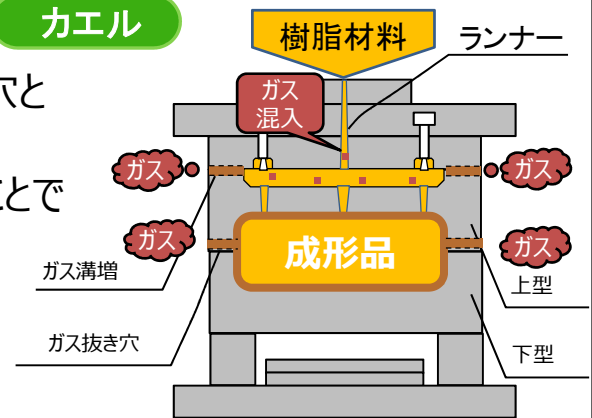
水穴径拡大により温度調整流量向上により
金型の冷却性能向上 成形時間 9秒/個短縮
《効果》 26.67t-CO₂/年 削減



樹脂成形型の内圧低減による省エネ

カエル

ランナー(樹脂注入路)の外周にガス抜穴と
ガス溝を追加、更に製品部分にも
ガス抜穴を設置し、型内圧を低減することで
型締力低減
⇒電力使用量1.5kwh/個 低減
《効果》 0.09t-CO₂/年 削減



組立生技部



レーザー発振器用チラーの省エネ対策

カエル

サゲル

レーザー接合のレーザー発振器は常時電源ONしており、
常に7kWの電力を使用
⇒エコモード搭載の新機種を採用し、非稼働時は3kW未満の
電力使用量で稼働

《効果》 9.53t-CO₂/年 削減

プラント環境技術部



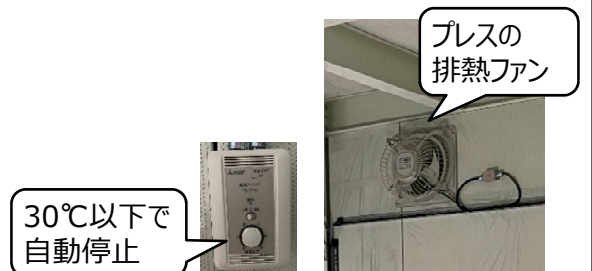
プレス防音ボックス排熱ファンの自動運転

カエル

トメル

温度センサを追加し、温度30℃で
ファンを自動で起動/停止させることで
換気ファンを最適運転化

《効果》 2.04t-CO₂/年 削減



5 脱炭素社会に向けた取組み

5-5. 技術開発によるCO₂低減

お客様ニーズに合わせたトヨタのプレス加工技術の選択肢
(要求性能*質量*コスト)

世界初!

冷間プレス加工技術によるCO₂排出量低減 採用事例

冷間1470MPa BピラーアウターR/Fの開発

開発品の効果 (熱間1470MPa_t1.4 ⇒ 冷間1470MPa_t1.3への置換)

- ◎CO₂排出量 : ▲9,200t-CO₂/年 (部品製造時+車両走行時排出量)
- ◎コスト : ▲31%
- ◎質量 : ▲8%

技術ポイント

1. 製品設計 : 超ハイテン材のシワ・ワレ対策形状
2. 予測技術 : CAEと現物との差異縮小

燃費向上!



新技術製品をグローバルで生産可能



世界初!

冷間1470MPa FRバンパーR/Fの開発

開発品の効果 (熱間1780MPa_t1.4 ⇒ 冷間1470MPa_t1.4への置換)

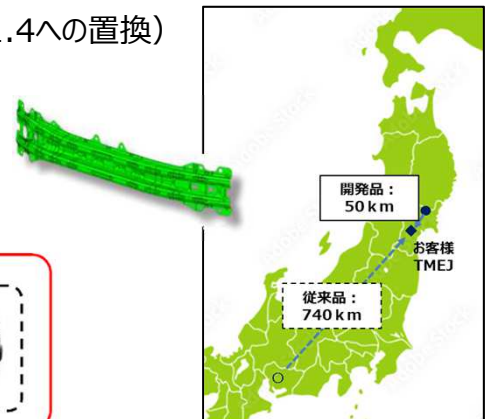
- ◎CO₂排出量 : ▲555t-CO₂/年 (輸送込み)
- ◎コスト : ▲25%
- ◎質量 : ± 0 (板厚アップなし)
- ◎部品点数 : 従来2種類(A*B) ⇒ 1種類へ統合



技術ポイント

1. 製品設計 : 高耐力断面・曲率凍結形状
2. 生技開発 : 製品精度抑制工法 (深絞りダブルクッションドロー)
3. 予測技術 : CAEと現物との差異縮小

独自開発の加工技術と
現地大型プレスラインで
現調化が実現

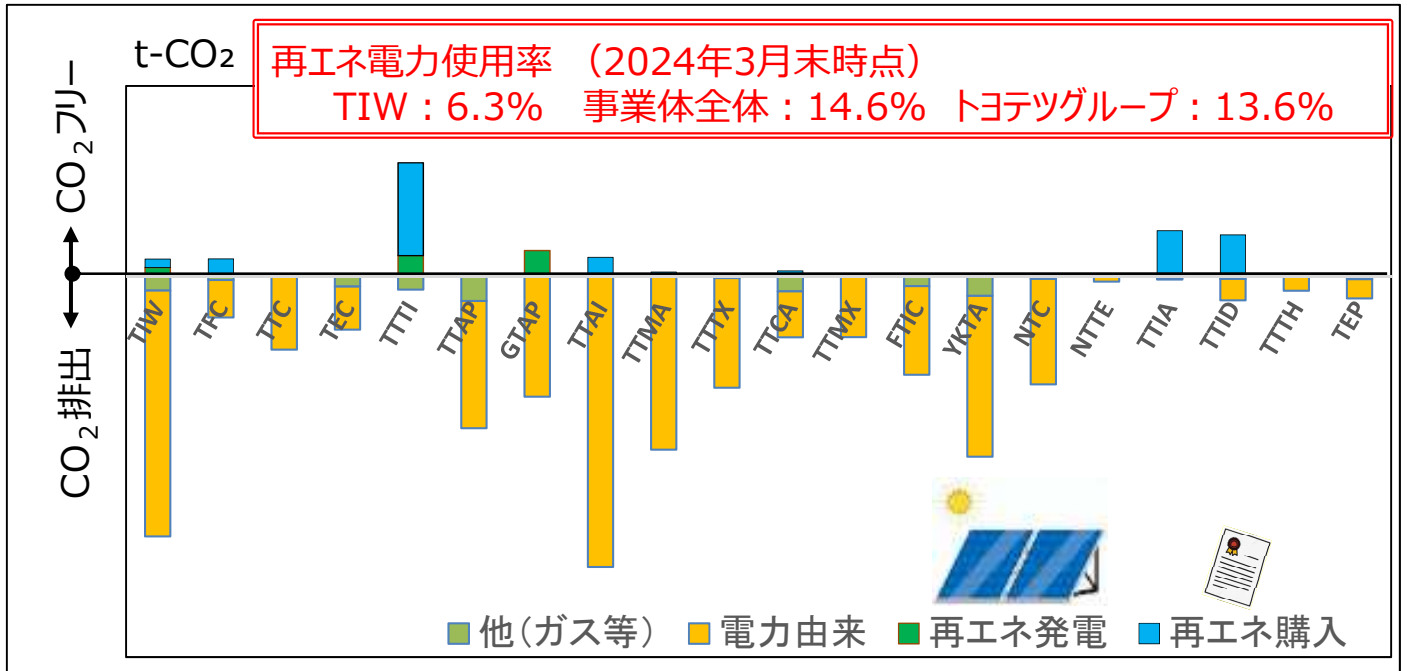


5 脱炭素社会に向けた取組み

5-6. トヨタグループと再生可能エネルギー

(TIW; TOYODA IRON WORKS CO.,LTD)

◆トヨタグループの再エネ状況



☀️ 太陽光発電システム導入実績

TIW工機工場 (愛知・豊田市)



テクノイト (愛知・瀬戸市)



TTTI (トルコ) オフサイト発電



トヨタグループは、2050年カーボニュートラル達成に向け、再生エネルギーの導入に積極的に取り組んでいきます。

☀️ 再生エネルギー設備 2024年度導入計画

No	設置場所	種類	発電能力	運用開始時期
1	TTAI (北米)	太陽光	16kw	2024年5月
2	TIW (組生工場)	太陽光	322kw	2024年11月
		水素	50kw	2025年2月
3	TFC (福岡)	太陽光	528kw	2025年2月
4	TIW (本社ビル)	太陽光	115kw	2025年3月

トヨタは現在建設中の組生工場に水素発電装置導入を決めました。





6 循環型社会に向けた取組み

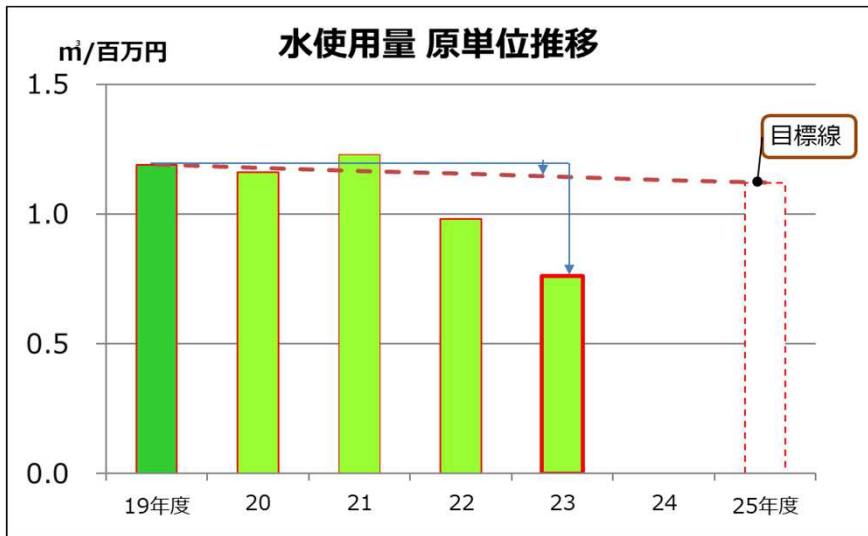
6-1. 生産活動における水使用量実績・廃棄物排出量実績

水使用量

※廃棄物削減目標：2019年度より毎年▲1.0%積み上げ

総量： 目標▲4.0% ⇒ 結果▲1.9% 
(▲3,162m³) (▲1,501m³)

原単位： 目標▲4.0% ⇒ 結果▲36.0% 



<目標達成理由>

- ・工機工場：埋設配管の工業用水が地中で水漏れ → 修理不可のため、地下水に切替え


<今後の取組み>

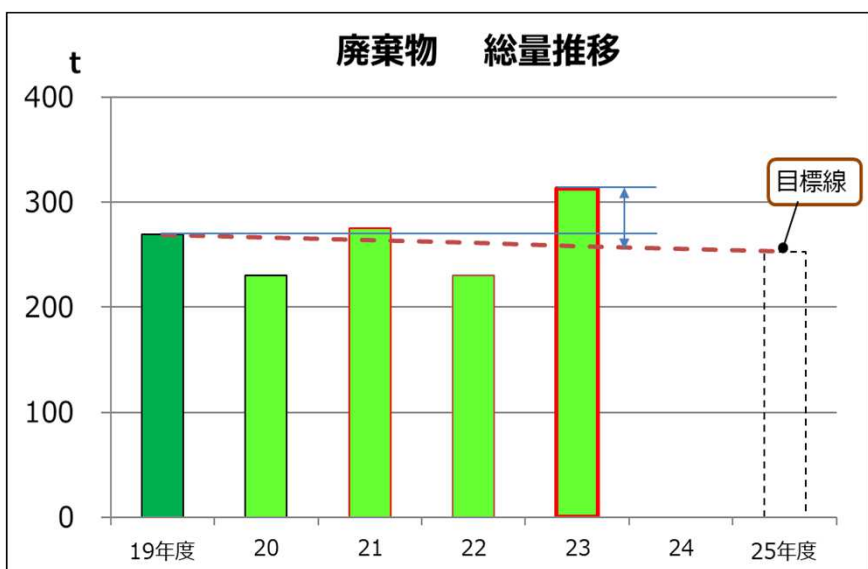
- ・本社工場：排水処理工程における窒素値オーバー時の希釈水低減 (エアプロア増強)

廃棄物 排出量

※水使用量削減目標：2019年度より毎年▲1.0%積み上げ

総量： 目標▲4.0% ⇒ 結果16.4%増 
(▲10.1ton) (44ton増)

原単位： 目標▲4.0% ⇒ 結果▲24.1% 



<目標未達理由>

- ・本社工場：処理前水(油)量が一時的に排水処理施設の処理能力を超過したため、産廃として排出 → 対策済み

<今後の取組み>

- ・アグリ：廃棄物の水分削減と残渣の堆肥化

6 循環型社会に向けた取組み

6-2. 樹脂製品の進化

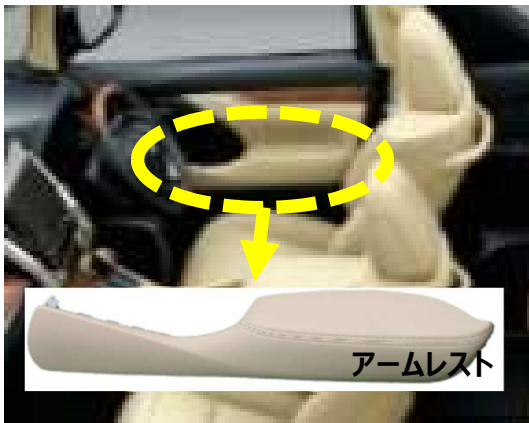
※とよとつ®は豊田鉄工株式会社の登録商標です。

人と環境にやさしい好触感な自動車内装部品
～材料ロスゼロの射出成型表皮付き部品開発～

“とよとつ”の開発・採用事例

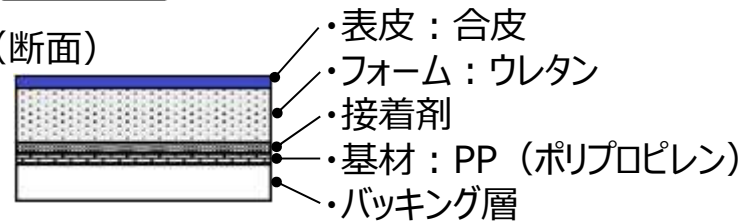
“とよとつ”とは、...

自動車内装部品のアームレストなどの樹脂部品を100%リサイクル可能な材料のみで構成し、従来レベルまたは、それ以上の触感を裏面の突起の形状や配置だけで作りあげた構造体



従来品

(断面)



分解困難 ⇒ 廃棄

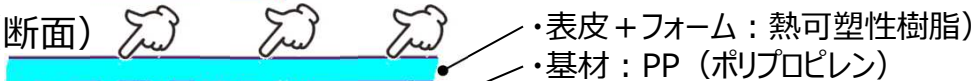
開発品

とよとつ形状



突起形状×配置×材料の硬さの組合せで
好みの触感を実現

(断面)



(表皮の汚れやキズの不具合)



分解容易 ⇒
(接着レス)

・表層部品のみ交換可
・分解→粉碎→リペレット⇒材料リサイクル

2015年 初採用後、



2016 : 愛知環境賞優秀賞

2019 : 3R(リユース・リデュース・リサイクル)
経済産業大臣賞

更なる進化へ

* 低コスト * クッション性の向上
* 更に環境にやさしい材料の探求 など

7 自然共生社会に向けた取組み

7-1. トヨタツの森での活動 1

◆「トヨタツの森」のコンセプト

COP10を受けて、トヨタツは東の矢作川と西の自然豊かな広陵地帯を結ぶ中間に位置しており、『**あいち生物多様性戦略2020**』のもと**“まちなかに生物を呼び込むみどりの回廊”**として「トヨタツの森」をつくることを決めました。周囲の企業や公園と一緒に豊田市における**「生態系ネットワーク」**の一端を担うべく、昆虫や鳥の移動域の中間地として、**「まちなかの自然」**をめざしました。

◆「トヨタツの森」の歩み

“自然を活用し、自然と調和する工場づくり”
を宣言し、トヨタツの森の造成を決定



7 自然共生社会に向けた取組み

7-1. トヨタの森での活動 2

◆自然共生プログラム活動の紹介

『TOYOTETSU EARTH KIDS 育成プログラム』 ～SDGs達成をめざす～

「トヨタの森」は、次世代を担う子ども達が自然に触れ合うことで、自然の大切さやおもしろさ・不思議さを肌で感じてもらう。更にはSDGsに関心を持ってもらい、持続可能な社会を達成していくために、『TOYOTETSU EARTH KIDS 育成プログラム』として取組んでいます。

🌲「トヨタの森」のテーマ

- ①地域と**つなぐ**自然保全活動の場
- ②生物多様性保全を世界へ**つなぐ**環境発動発信基地
- ③環境活動を未来へ**つなぐ**教育の場

🌲「トヨタの森」のキャッチフレーズ

- 春 「トヨタの森」であそぼう！・学ぼう！
・木々などを観察し、名前や特徴を知る
- 夏 「トヨタの森」を彩ろう！・味わおう！
・森の恵みをいただく
- 秋 「トヨタの森」を楽しもう！
・生き物をさがす
・森の恵みを使って、工作する



『トヨタの森イベント』は年3回開催されます。2017年のスタートした当初は、社員の親子のみを対象に開催していましたが、2021年からは豊田市との共同開催となり、市民の方々にも参加して頂いています。

次の目標は、地域や社外の方々が無難に立ち寄って頂ける「憩いの場所」にできるように、ハード面とソフト面を整備していきます。



自然共生社会に向けた取組み

7-1. トヨタの森での活動 3



🐞 2023年 トヨタの森でイベントを開催

・4月2日 参加者：21名 内容：生き物探し、バードハウス作り、花見



・9月30日 参加者：35名（豊田市とコラボ 市民含む） 内容：生き物探し



・12月9日 参加者：21名 内容：生き物探し、リース作り、クリスマス会



プログラムの最後には、振り返りとして自分たちが出来るSDGs行動宣言を
してもらい、SDGs缶バッジをプレゼント





自然共生社会に向けた取組み

7-1. トヨタの森での活動 4

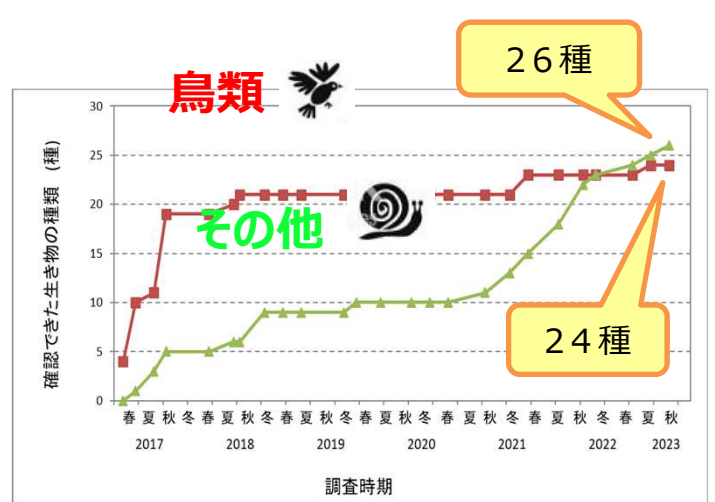
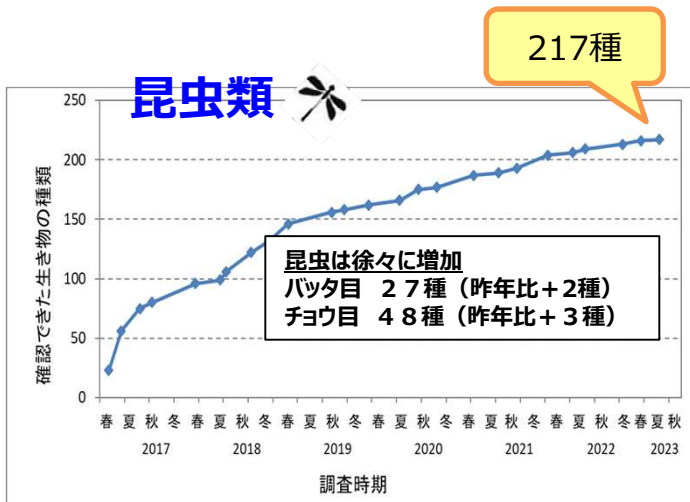


トヨタの森で生き物観察

プログラム内での生き物さがしでは、「生き物さがしかんさつノート」を使用し、森で見つけた生き物や植物などを、地図にシールを貼ります。シールにすることで、小さな子どもも遊び感覚で楽しむ事ができます。

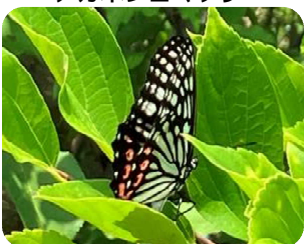


トヨタの森で生き物調査状況



23年度、新たに仲間に加わった生き物たち

アカボシゴマダラ



チョウトンボ



ビロウドサシガメ



2023年度時点、
累計267種の生き物が
確認されました。

7 自然共生社会に向けた取組み

7-2. トヨタの森10周年

◆トヨタの森10周年記念式典を開催

◇開催日時：2023年11月27日（月） 11:00～12:00

◇参加者：坂元社長、会社役員、監査役、シニアエグゼクティブアドバイザー
本部長、本社工場長、TSサービス社長、労働組合委員長
(株)ComodoLABO、環境事務局



坂元社長ご挨拶



坂元社長と青山組合委員長による記念植樹

①記念樹：ヒトツバタゴ
(別名；ナンジャモンジャ)
*絶滅危惧種Ⅱ類指定



③『ビオトープとは・・・』、『空の生き物』、『陸の生き物』、『水辺の生き物』を解説するパネルを製作・設置



②全従業員に配布された
記念品のせんべい



7 自然共生社会に向けた取組み

7-3. トヨタの森 受賞と更なる取組み

◆トヨタの森の活動が 2024年愛知環境賞『銀賞』受賞

**愛知環境賞
銀賞**

AICHI Environmental Award 2024

豊田鉄工株式会社 / 株式会社Comodo LABO / よりあい工房ばんどり

“地域とつなぐ” “未来へつなぐ”
トヨタの森での自然共生プログラムの推進

連絡先 豊田鉄工株式会社 プラント環境技術部 環境企画室 <https://www.tiw.co.jp/>
豊田市細谷町4丁目50番地 0565-26-1958(部署代表)

受賞のポイント 企業の森づくりを活用して地域の子ども達への環境教育や自然共生プログラムの実践など地域と連携して環境保全活動の推進に取り組んだことは、環境活動の推進による持続可能な社会の形成に大きく貢献するものと高く評価された。



“地域とつなぐ”

トヨタの森づくり

昆虫や鳥などの生き物が他のエリアとの繋がりを持てるようにし、30by30*の達成に向けた森づくりを展開

*30by30とは、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする世界目標である。

“地域とつなぐ” “未来へつなぐ”

生き物調査

植物の生育と生き物の生息を把握するため季節ごとにモニタリング調査を実施
現在は、調査開始時の約3倍の262種類の生き物を確認

自然共生プログラム

四季を通して五感で楽しめる体験学習プログラムを構築し、学びの場を継続的に提供することで、参加者の環境マインドを醸成・普及

◆トヨタの森に次ぐ自然共生社会に向けた更なる取組み

トヨタが所有する “みどり豊かな額田サイト”で何かできないか！?

【検討】 額田サイトの森林を有効活用する

①額田サイト面積：113,000㎡ (ハンテリンドーム敷地面積：104,000㎡)
②工場と付帯面積：38,000㎡ (ハンテリンドームフィールド面積：13,200㎡)
∴①-②=75,000㎡ (7.5ha)

自然共生や生物多様性及びCO₂相殺(カーボンオフセット)を目的とした新たなプロジェクトをスタートさせました。

8 マネジメントでの取組み ~SDGs取組み紹介~

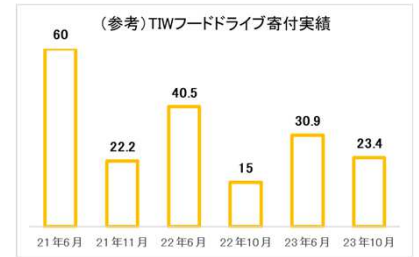
8-1. 地域との連携 1

◆環境の保全を推進する協定協議会に参画

フードドライブを実施（7月・10月）



インスタント・レトルト・缶詰食品、カップ麺などが集まりました。
協定協議会を通じて、生活困窮者や子ども食堂、福祉施設などへ送られました。



協定企業のエコな取組みと自然共生活動の紹介（9月）

[広報とよた]で応募

●親子で生き物探しに挑戦だ！
～エコ企業見学・環境学習会～

9月30日(土)午前9時～正午 ※雨天の場合は10月7日(土)へ延期
豊田鉄工トヨタの森(細谷町)
市内内在住の親子 抽選30人
詳細は環境の保全を推進する協定協議会へ 8月31日(木)までに申込み共通事項と参加者の年齢を協定協議会へ、@で豊田鉄工環境部企画室 (@26・1953、@kankyou@tw.co.jp) 環境保全課 (@34・6628、@34・6634、@k_hozen@city.toyota.aichi.jp) ホームページ



豊田市協定協議会と共同で市民参加のイベントを開催。
トヨタの森で生き物さがしを行いました。

トヨタの環境活動を紹介@豊田市図書館（2月）



8 マネジメントでの取組み ～SDGs取組み紹介～

8-1. 地域との連携 2

矢並湿地（ラムサール条約登録湿地）保全ボランティアに参加（9月・1月）



保存会の矢並在住のトヨテツOBと現役のトヨテツ社員が参加し、良い交流の場となりました。

豊田市西広瀬小学校ビオトープ保全活動ボランティアに初参加（5月）

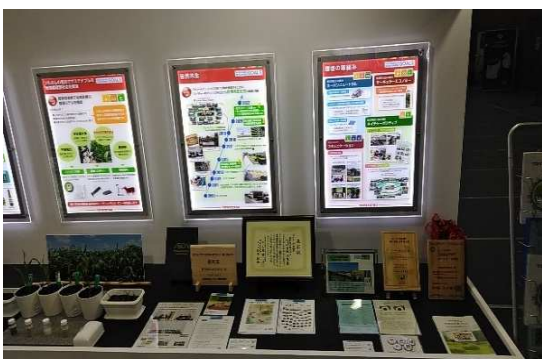


生徒、先生、PTAや地域の人たちとトヨテツ社員が、カナダ藻の除去やあぜ道の整備を行いました。

とよたビジネスフェアにテクノイト(株)、とよてつ共栄会と共に出演@スカイホール豊田（3月）



今年もトヨテツブースに多くの方々にお越し頂きました。SDGsを意識した環境取組みなどを紹介し、トヨテツの活動を理解して頂く良い機会となりました。



8 マネジメントでの取組み ~SDGs取組み紹介~

8-2.環境月間での取組み (6月)

一	実施事項	SDGs繋がり	実施時期	内 容
告知	ポータルへの掲示 本館:2F出入口ポスター告示		6/1~6/30	環境月間行事等の案内
	環境のぼりの展開			各工場 & 本館での環境のぼり設置
学習	社内報 特集		6/13(火)17:30~	トヨタ環境月間行事案内の展開。 みなさんと企画を共有し意識の高揚活動に繋げる
	環境講演会			講師:ウェストボックス 鈴木 修一 様 於:本館 221ABC会議室
実践	クールビズの展開中		5/1~10/31	「賢い選択」「COOL CHOICE」で冷房温度の適正化 ノーネクタイなど軽装対応
	環境創意工夫		5/8~6/16	環境改善に特化して創意工夫提案
	グリーンウェーブ2023		5/22	<グローバル活動> トヨタグループ グリーンウェーブ2023(植樹)を実施
	職場改善事例コンクール		6/1~8/1	オールトヨタで実施し、ブロック毎に表彰 グローバル:優秀・優良賞は環境委員会で表彰
	家庭でのエコ事例 コンクール			各家庭でエコな活動を実施している事例の紹介で横展開を図る 国内:優秀・優良賞は環境委員会で表彰
	省エネパトロール		6/1~6/30	環境保全責任者、推進者と事務局が昼休み、 直間、定時後に見回りチェック
	食堂でのサステナブル シーフードメニュー提供		6月:本社食堂にて (日程確定後案内)	環境に配慮した水産物認証食材を使用
	ライトダウン		6/21 (夏至日) 7/7 (クールアースデー)	毎週水曜日は定時の日です!更なる節電に協力下さい。 (6月21日(水)-7月7日(金) 定時帰宅推奨日)
	フードドライブ		6/13~6/30 (10月も計画)	家庭で消費しない(余っている)食品を 福祉団体や施設へ提供する。



改善する事で収益につながります!

家庭での出費低減に効果!



8 マネジメントでの取組み ~SDGs取組み紹介~

8-3. トヨタグループトピックス 1

《特集》 グループ各社の活動

グリーンウェーブプロジェクト

グリーンウェーブは、国連が呼び掛けた活動で、2020年に国連の活動としては終了しましたが、トヨタグループは『SDGs』や『自然共生』の観点から継続的に実施しています。

5月20日現地時間10:00に国内外の事業体で植樹



8 マネジメントでの取組み ~SDGs取組み紹介~

8-3. トヨタグループピックアップ 2

《特集》

グループ各社の活動

テクノイト（愛知）

瀬戸市役所と地域事業所合同で蛇ヶ洞川の清掃活動を実施



TTC（宮城）

伊豆沼のクリーン活動
ラムサール条約登録湿地)



TFC（福岡）

地域清掃及び彼岸花の植樹



TTAP（中国）

工場外周大掃除活動を実施



TTIA/TTID（インド）

記念植樹を通じ、身近なところから出来るE C Oを推進していきます。



GTAP（中国）

中国の植樹節に合わせ近隣会社と80本を植樹



黄花風鈴の木

TTCA（カナダ）

家族で環境に関する切り絵を作成



9 第三者保証

9-1. 第三者保証紹介

一般社団法人 中部SDGs推進センター 副代表理事
環境省登録 環境カウンセラー
百瀬則子氏



2023年は世界平均気温が観測史上最高記録を大幅に更新し、世界気象機関（WMO）は、2023年の世界平均気温は1850～1900年と比較して、約1.4℃上昇し、観測史上もっとも高かったと発表しました。地球温暖化が今後も続く場合、自然災害が多発するなどの悪影響がさらに深刻化する恐れがあります。これらの原因の多くは人類の社会経済活動から排出されたCO₂など温室効果ガスであり、早急に排出削減を図る必要があります。また、持続可能性といえば脱炭素対策に重点が置かれていましたが、**生物多様性を同じく重要課題**として、2022年に締結された生物多様性条約「昆明・モントリオール生物多様性枠組み」では、ネイチャーポジティブ（自然復活）を提唱し、その実現に世界が大きく動いています。

こうした背景の中で、トヨタグループは2030年CO₂排出50%削減（2013年比）を掲げ、環境報告書2024を作成しました。この報告書には、SDGsを達成し、持続可能な企業を目指した、脱炭素・資源循環・生物多様性保全への取組と地域社会貢献活動の過程と成果について報告されています。

私は豊田鉄工株式会社の2023年環境活動第三者保証のために本社を訪問し、また環境報告書についてインタビューを行いました。

私はこの報告書の記載内容を拝見し、トヨタグループの事業及び環境・社会貢献活動が、SDGs達成に取組み持続可能な企業を目指していることを確認しました。

今年の環境報告書トップメッセージでは「2050年カーボンニュートラルを目標として、2030年に2013年度比50%減を達成するべく、努力を続けております。」と述べられています。そして第5次環境取組みプランとして「脱炭素」「循環型社会」「自然共生・生物多様性」「マネジメント」の活動により、地球温暖化防止、環境と経済の両立、そして全社員で企業活動の中だけではなく環境保全行動を続け次世代に意義を伝えとあります。これらは**持続可能な社会を目指すSDGsに貢献するもの**です。

今年のトップニュースは、トヨタの森活動が評価され2024年愛知環境賞「銀賞」を受賞したことです。また、トヨタの森は環境省から自然共生サイトに認定され、OECMとして国際データベースに登録されました。

元来自社の事業ではない「森づくり」は、2012年に社屋の建替えを機会に旧社屋跡地をトヨタの森に生まれ変わらせたものであり、トヨタグループの地球環境保全に対する大きな功績だと評価します。それは2010年のCOP10を受けた「**あいち生物多様性戦略2020**」を具現化し、**まちなかに生物を呼び込むくみどりの回廊**として**東の矢作川と西の広陵地帯を結ぶ**というコンセプトに基づいたものです。

トヨタの森は地域の自然環境と一体になって生物多様性に貢献しており、SDGsのアウトサイド・イン・アプローチそのものです。

また、受賞のポイントとして、トヨタの森を使って、地域の子もたちへの環境教育や自然共生プログラム実践など、地域社会と連携して環境保全に取り組んだことが挙げられています。そし

て世界中が目指している**ネイチャーポジティブ**を実践していることを高く評価します。「SDGs15陸の豊かさを守ろう」「SDGs4質の高い教育をみんなに」そして「SDGs11住み続けられる街づくりを」に向かって活動していることを確認しました。

今後の計画として、額田サイトの森林再生で生物多様性とCO₂吸収による脱炭素を目指す所あり、更なる取組みを期待しています。

環境マネジメントの報告では、現場のリーダー皆さんの思いが述べられています。各工場における生産現場での脱炭素・資源循環の実践や、敷地内にあるトヨタの森での自然共生への取組み、従業員の環境保全活動などが報告されています。また、プレス・化成生技部の廃棄ロス削減やアグリカルチャー事業部の活動など、多岐にわたる環境マネジメントの取組がなされていることを確認しました。それぞれのリーダーの決意が感じられました。

2023年度取組み結果は、ほとんどの項目で目標達成していましたが、脱炭素の分野では環境に配慮した移動手段と生産におけるCO₂削減。循環の分野では節水が未達成でした。また、連結環境マネジメント項目では異常苦情ヒヤリが3件報告されていました。引き続き目標達成のためにPDCAを回し続けることを、インタビューで確認しました。

技術革新による脱炭素社会への貢献では、冷間プレス加工技術により、部品の軽量化を図り、更に世界各地の拠点に大型プレス機を設置し、グローバルで生産を可能にしたことを確認しました。硬く伸びにくい素材を加温せずにプレス加工する技術で製造時のCO₂を削減し、さらに製品の軽量化により、ユーザーの走行時の燃費を向上させたことを確認し、高く評価します。

(SDGs9・13)

そして、海外拠点を含めたトヨタグループ全体で再生可能エネルギーへの転換を進め、TTTI（トルコ）では太陽光発電による再生可能エネルギー100%（Scope1を除く）で創業し、グループ全体では13.6%と報告されています。また国内・海外の工場では太陽光発電を設置し、2050年カーボンニュートラル達成を目指した取組みを加速させていることを確認しました。

(SDGs7・13)

SDGsを自分ゴト化するマネジメントでの取組みでは、多くの社員が積極的に活動をしていることが報告されています。特に地域社会活動や、世界各地での植樹活動グリーンウェブでは、トヨタグループの生物多様性保全のノウハウを駆使してSDGsを実践し、ネイチャーポジティブに貢献していることを確認しました。

(SDGs11・15)

これらの確認ができたことにより、2024年環境報告書の内容について保証いたします。

持続可能な社会を構築する持続可能なトヨタグループとして、最先端のものづくりの技術と全員参加の環境マネジメントにより、脱炭素・資源循環そして自然共生・地域貢献活動の実現でSDGsに貢献することを期待しています。



豊田鉄工株式会社は国際社会が合意したSDGs(持続可能な開発目標)達成に向けて取組んでいきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



豊田鉄工株式会社

私たちトヨタグループは、より良い社会と未来のため、事業活動を通じた取組みにとどまらず、地域社会への貢献をグローバルで取組んでいます。